

## 試験研究成果普及情報

部門	森林保全	対象	普及
課題名：間伐材を活用した低コストで防護効果の高いシカ侵入防止柵			
〔要約〕 間伐材を支柱とするシカ侵入防止柵は、市販の侵入防止柵に比べると設置労力がやや多く掛かるものの、資材費が削減できる。また、防獣ネット裾の外側に現地で調達可能なスギ枝葉、竹材等を積み上げることにより、シカに対する侵入防止効果を向上させることができる。			
キーワード： 鳥獣害、シカ、侵入防止柵、造林地、間伐材			
実施機関名	主 査	農林総合研究センター・森林研究所	
	協力機関	農林総合研究センター・暖地園芸研究所・果樹・環境研究室、 生物多様性センター、中部林業事務所、南部林業事務所	
実施期間	2010年度～2012年度		

## 〔目的及び背景〕

シカが生息する県中南部の森林では、シカの食害による造林木の生育阻害と植生の貧弱化が起こり、大きな問題となっている。これは、森林生態系の破壊や土砂崩壊の危険性増大、水源かん養機能の低下などにも繋がるため、大きな問題である。この対策に有効なシカ侵入防止柵については、各メーカーから防獣ネット、金網等を用いた柵が市販されているが、市販の柵は価格が高く、林業経営が厳しい千葉県では実用的に使用されていない。そこで、千葉県の造林地に対応した安価で防護効果の高いシカ侵入防止柵を開発する。

## 〔成果内容〕

- 1 間伐材を支柱として防獣ネット（目合 10cm 以下）を張った侵入防止柵は、設置労力がやや多く掛かるものの、資材費を約半分に削減できる（表 1）。造林地の周囲に立木がある場合は立木を支柱に利用することで、設置労力、資材費を更に削減可能である。
- 2 ネット裾の外側に現地で調達可能なスギ枝葉、刈草、竹材を 20～50cm 積み上げることにより、シカに対する侵入防止効果を向上させることができる（表 1、図 1）。

## 〔留意事項〕

イノシシのネット裾からの侵入とウサギによるネットの切断は、市販の侵入防止柵と同様に間伐材を活用した侵入防止柵でも発生し、シカの侵入が可能になる恐れがあるため、定期的な見回りと補修等の保守管理が必要である。

## 〔普及対象地域〕

県中南部のシカが生息する地域

[行政上の措置]

有害鳥獣被害防止対策事業における侵入防止柵設置に対する助成

[普及状況]

[成果の概要]

表1 間伐材を活用したシカ侵入防止柵の設置事例と防護効果

区 分	100m当たり		設置後2年間における ヒノキ苗のシカ食害発生率 (%)
	資材費 (円)	設置労力 (延べ時間)	
間伐材の侵入防止柵A	24,000	11.3	0
間伐材の侵入防止柵B	24,000	11.9	0
市販の侵入防止柵	53,000	9.6	14
無設置	—	—	100

注1) 大多喜町における3反復の試験区の事例

2) 間伐材の侵入防止柵Aはネット裾をスギ枝葉、刈草、Bは竹材で固定

3) 間伐材は自伐として0円で計算(購入は1万円高/100m)

4) 立木を支柱に使用すると設置労力を大幅に削減可能

5) 市販の侵入防止柵の1試験区でネット裾をまくり上げてシカが侵入し、食害発生

6) 資材費は、間伐材の柵がネット+留め具の購入費、市販の柵が支柱+ネット+留め具の購入費

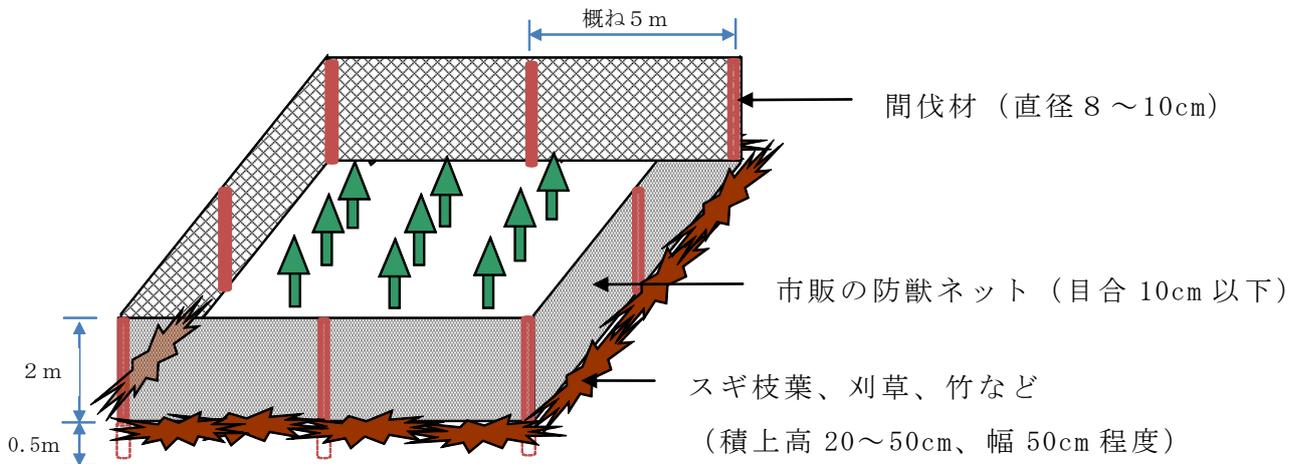


図1 間伐材を活用したシカ侵入防止柵のモデル図

[発表及び関連文献]

- 1 平成25年度試験研究成果発表会(林業部門)
- 2 千葉県農村環境整備課(2013年1月15日):野生鳥獣害研究チームによる取組状況、<http://www.pref.chiba.lg.jp/noushin/choujuu/yougai/documents/sinrinbukai.pdf>

[その他]

- 1 千葉県野生鳥獣対策本部野生鳥獣害研究チーム森林部会研究課題
- 2 平成22年度試験研究要望課題(提起機関:山武農林振興センター)